

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100153
法人名	日本ケアシステム株式会社
事業所名	グループホームよろこび
所在地	松山市堀江町甲2082-1
自己評価作成日	平成22年7月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

海と山が近く、豊かな自然に恵まれた場所にあるグループホームです。ゆったりとした暮らしの中でよここびを感じ、自然と笑顔がこぼれる生活を大切にしたいと思っています。職員は常に笑顔で接する事をこころがけ、その笑顔が入居者様の笑顔を引き出し、共に笑うことで心温まる交流が図れるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 事業所は町内会に加入されており、回覧板は次のお宅へ利用者と職員で回しておられる。その際には、近所の独居の高齢者のお宅にも立ち寄りしてみるようにされている。民生委員の方から紹介いただいたボランティアの方が、伊予万歳を見せてくれたり、エレクトーン演奏に来てくださっている。
- 利用者の好みを聞き取り、法人の栄養委員会で話し合い、土用の丑の日に鰻丼にされたり、お刺身やラーメン等もメニューに採り入れ、食事を楽しんでいる。食事中、職員は、利用者と同じものを食べながら、味付けの感想をお聞きする等、メニューのことを話題にして会話されていた。調査訪問時は、ホットケーキを利用者と職員で作っておられた。すいかの皮を付けて切っておられ、食べにくい方には、職員がお聞きしてサイコロ状に切って来られる様子がうかがえた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容を P R !!!

- サービス向上への 3 ステップ -

事業所名 日本ケアシステム株式会社

(ユニット名) グループホームよろこび

記入者(管理者)

氏 名 藤田 直志

評価完了日 H22年 7月 1日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			「笑顔」という理念のもと職員がいつも笑顔である事をこころがけている。職員が笑顔でいる事で、入居者も安心され、温かい雰囲気を作られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(外部評価)	
			事業所では「笑顔」を理念に揚げて、地域の方達とも笑顔で挨拶される等、関係作りに努めておられる。又、職員は、利用者とも「笑顔」でかわり、あたたかく安心できる雰囲気作りに努めておられる。	
3			(自己評価)	
			散歩の際には地域の人に挨拶をしたり、入居者・職員の顔を覚えていただく様にしている。玄関先にはベンチを用意し、地域の方が散歩の途中に休憩でき、入居者・職員と交流できるようにしている。また、「まもる君の家」の設置にも協力している。	
			(外部評価)	
			事業所は町内会に加入されており、回覧板は次のお宅へ利用者と職員で回しておられる。その際には、近所の独居の高齢者のお宅にも立ち寄ってみるようにされている。民生委員の方から紹介いただいたボランティアの方が、伊予万歳を見せてくれたり、エレクトーン演奏に来てくださっている。	現在、日々の散歩は、海方面へ出かけることが多いが、地域の方達に利用者のお顔等を知ってもらいたいという思いもあり、今後は、住宅地方面を散歩したいと話しておられた。又、地域向けに「グループホーム便り」の作成も考えておられる。さらに、子ども達とも交流できるように、行事ごとに誘ってみてはどうだろうか。
			(自己評価)	
			他部署と共同での行事を行う際には、地域の人やボランティアの方にも参加をして頂き、入居者との交流を図るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○ 運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議を通じて、ご家族や地域、他事業者の 方々の意見を聞き、それを参考に、グループホームの サービスの質の向上や改善に繋げるようにしている。	
			(外部評価)	管理者は、今後さらに、町内会長等、地域のいろい ろな立場の方に声をかけ、会議に参加いただきたいと考 えておられる。又、会議の内容等をご家族にも知らせ たり、他グループホームと相互に会議に参加し合うこ とも考えておられ、今後さらに会議を活かして、事業 所のケアサービスの質の向上につなげていかれてほし い。
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議を開催する際には、連絡をし、参加をし ていただいて意見を伺うようにしている。また、介護 保険や日常の介護の事で相談をし、アドバイスを頂い ている。	
			(外部評価)	会議時、市の担当者にも出席をいただき「防火・防災 について」話し合われた。「地域の方に駆けつけても らうには、日頃の付き合いが大切」とアドバイスをい ただいた。
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			日中、玄関は施錠せず、夜間のみ安全の為、施錠をし ている。身体拘束が必要とされる場合には、ご家族か ら同意書を頂いているが、出来る限り拘束はしないよ うに努めている。	
			(外部評価)	気ままに出かける利用者には、ご本人が納得されるま で職員と一緒に付き添うようにされている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者の尊厳を守る介護を一人ひとりがこころがけ、虐待が起こらないように努めている。管理者は虐待防止の講習を受け、その内容を職員にも伝達している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 部署全体での伝達講習で成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、入居者に必要がある場合には、制度を活かせるようにこころがけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者や家族に対して、不安や疑問に思ふ事を尋ね、分かり易い言葉で丁寧に説明し、理解・納得して頂けるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者・職員は家族が来所された際には話をする機会を持ち、意見や要望を伺うようにしている。また、玄関先に意見箱を設置し、家族が気がねをせずに意見を言えるように努めている。 (外部評価) ご家族の来訪時に意見等をお聞きしており、ご家族より「もっとみんなの中に入っていけるようにしてほしい」と要望があった際には、ご本人に積極的に声かけしてレクリエーションにお誘いする等、皆と楽しい時間が作れるように支援された。又、駐車場の車の置き方等についてご家族からのご意見もあり、白線を引き、調整された。今後さらに、ご家族から意見を引き出し、貴事業所のケアサービス等の質の向上への取り組みにつなげていかれてほしい。日常生活での外出や食事、日中の過ごし方、報告の工夫等について、ご家族に要望や意見を具体的に聞くような機会を作ってはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回ミーティングを開き、職員全員で意見や提案を出して、話し合いを行っている。出された提案は代表者に報告をし、グループホームの運営に反映されている。 (外部評価) 管理者は、職員の意見を大切にされており「何でも、いつでも言ってください」と伝えておられる。職員の得意なことを活かして、居間の装飾やレクリエーション等、それぞれ担当を決めて取り組みをすすめておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員には半年に一度「自己評価表」を記入してもらい、自分が何が出来て、何が出来ていないかを知ってもらうと共に、代表者は一人ひとりの勤務状況を把握するように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に関する情報を職員に伝え、順に全員が参加を出来るような体制を作り、職員の知識・技術の向上を行っている。研修の内容はミーティングの際に全職員に報告をおこない、グループホーム全体でのレベルアップに繋げている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などを通じて知り合った他グループホームの方とは、情報の交換を行ったり、運営推進会議に参加をしたりして交流を深めている。愛媛県グループホーム連絡評議会に入会しており、研修に参加するなどして、サービスの質の向上に努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の居室を今まで住んでいた居室と似たものとする事で、安心して、これからの生活が送れるように努めている。また、職員から笑顔で声かけをし、本人の不安や要望を聞くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族に見学に来てもらい、グループホームでの生活の様子を見ていただき安心していただく、また職員は自ら話かけを行い、ご家族が遠慮して話せない不安や要望なども聞きだし、それを解消することで信頼関係を築くようにしている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族等・職員とで話し合いを行い、本人が必要としているサービスを見極め、その内容によって他のサービス（医療等）との連携を図り、対応に努めている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と本人が一つの家族のように日常を過ごす事で、お互いが支えあう存在となり、それぞれが持つ力が引き出せるように努めている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族に向き合おう、声を聞こうという姿勢を常にもち、家族の本人に対する想いを理解する事で、共に支え合う関係を築ける様に努めている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や知人など、顔馴染みの人と楽しい時間を過ごす、ドライブの際には馴染みの場所に立ち寄るなどし、本人が築いてきた馴染みの人や場を大切に維持できるよう努めている。 (外部評価) 入居前から利用している美容院の方が2ヶ月に1回、事業所に来てくださり、カットをしてもらっている利用者がいる。洗車が得意な利用者と一緒にホームの車を洗うようにされている。	 管理者は「以前にやっていたことが、今の暮らしの中で活かせるように支援していきたい」と考えておられる。利用者一人ひとりについて馴染みの人や場所等の情報を集め、関係を続けていけるような支援につなげてみてほしい。ご本人やご家族とも相談しながら、季節のお便りを出すような取り組みをすすめてみてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			職員が入居者同士の関係を把握し、顔馴染みの関係作りと、相手への思いやりの気持ちが持てるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			契約終了後も必要に応じて、ご本人・ご家族と相談や支援が出来るような関係を維持できるように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			日常会話などから、担当職員が本人の思いや希望を聞いたり、ご家族からの要望などをお聞きする中で、本人の意向を把握し、望む生活の実現に努めている。	
			(外部評価)	
			日々の中で職員は、利用者に暮らしの希望をお聞きしたり、行動を観察して、アセスメント表でご本人の生活習慣等の把握にも努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			ご本人やご家族から話を聞くなどして、職員一人ひとりがこれまでの暮らし方・生活歴を把握し、その人がその人らしく、これまでの生活を継続していけるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			共に過ごす毎日の生活の中で、一人ひとりの精神状態・身体状況を把握し、その人が有する能力に応じて、可能な限り自立した生活ができるような支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 介護計画をたてる際には、ご本人やご家族から意見を 聞き、職員全体でその人がより良い生活を送れるには どうすれば良いか話し合い、介護計画を作成してい る。	
			(外部評価) 介護計画は半年毎に見直しをされている。ご家族の来 訪時や電話で意見を聞き、ミーティング時、職員は、 利用者個々の状態等の情報について話し合い、ケアマ ネージャーを中心に介護計画を作成されている。 利用者の日々の介護記録の冒頭に介護計画の短期目 標、長期目標を記入して、職員が計画に沿った支援が できるようにされている。ご家族より「役割を持った 生活をさせて欲しい」と希望があり、ご本人とも相談 しながら家事等、利用者が出来ることを無理なく行え るような計画の作成に取り組まれた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 本人が話した会話の内容、様子、職員が感じた事、対 応などを記録し、職員全体で情報を共有し、個別ケア に繋げていけるようにしている。また、記録はご家族 が希望した際には、いつでも閲覧できるようにしてい る。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 併設型施設の長所を生かし、他部署の職員・利用者との 交流、レクへの参加などを行い、入居者の活動の幅 が広がるように努めている。ご本人やご家族の要望が あれば取り入れ、サービスの質の向上に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 民生委員さんや他事業者の方との交流を通じて、近隣 のボランティアなど地域資源を教えていただしてい る。その地域資源を活用して一人ひとりの豊かな暮ら しの実現に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人・ご家族が内容に安心し、納得していただける 様に馴染みの病院との関係を大切にしている。ご家族 が受診出来ない場合には、訪問診察を利用されたり、 職員が病院受診に同行し、適切な医療が受けれる様に 支援している。	
			(外部評価) 協力医から月2回、往診に来てくれるようになってい る。ご家族が病院受診に付き添われる方もある。歯科 診療が必要な方には、協力歯科医院が往診してくれる ようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 提携医療機関より、定期的に(週1)訪問診察にきて いただく事により、主治医や看護職と連携が図れる体 制が出来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には職員が面会に行き、病院関係者との情報交 換や相談を行い、ご本人の経過や状態の把握に努めて いる。できるだけ早期退院できるように、病院関係 者、ご本人、ご家族と退院計画を話し合い、退院後 にご本人が安心して今までの生活が行える様に支援を している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期においては、医療機関とご家族、事業所とで話 し合い、協力をしながら、ご本人の望み・ご家族の意 見を支援に取り入れて、チームとしての体制作りに努 めている。	
			(外部評価) この一年間で「重度化・終末期ケア対応指針」を作成 された。今後、家族会等で説明を行う予定になってい る。近々、職員は、看取りについての外部研修に参加 する予定になっている。現在、終末期にある利用者 の方には、ご家族と相談しながら支援されており、ご本 人のお好きな「ちらしずしや果物」が食べられるよう 支援されている。	今後、重度化や終末期支援については、事業所の体制 作りに取り組み、ご本人・ご家族の希望に沿った支援 をすすめていけるよう取り組まれてほしい。さらに、 ご家族と今後のことについて心配なことや不安なこと 等について、話し合うような機会を多く作っていかれ てほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			定期的に消防署より救急救命講習に来ていただき、職員全員が急変時や事故発生時に適切な対応がとれるように訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			法人全体として年2回の消防・避難訓練を行っている。また、グループホームとしても夜間を想定した避難訓練を行っており、昼夜の別なく入居者の避難が迅速に行えるように努めている。	
			(外部評価)	
			年間4回の避難訓練を行っておられ、内2回は、消防署の協力を得て併設施設とともに実施されている。グループホーム単独でも2回行っておられ、災害時の職員の連絡網等も整備されていた。	管理者は、利用者の身体レベルの変化等も踏まえて、併設施設や地域の方との協力体制作りをすすめたいと考えておられる。まずは、地域の方にもっとグループホームや利用者のことを知ってもらいたいと話しておられた。利用者、職員の安心と安全に向けた取り組みを、具体的にすすめていかれてほしい。
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			入居者一人ひとりの意思を尊重し、その人の性格や好みに合わせた言葉かけや対応をこころがけている。また、職員が居室に入る際には、ご本人に声をかけてから入るようにするなど、その人の意思やプライバシーを尊重している。	
			(外部評価)	
			利用者の方の呼び方を、ご家族とも相談して、以前から呼ばれ慣れている「先生」とお呼びすることにされていた。トイレ誘導時の声かけ等は、他の利用者の方にも配慮して、ご本人だけに分かるようにされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			日々の生活での交流を通じて、職員と入居者との信頼関係を築くようにこころがけている。言葉でうまく表現できない入居者の方には手や首を振って表現をして頂いたり、表情などを良く見て本人の意思を確認し、一人ひとりが自己決定できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員のペースで入居者の生活を決定するのではなく、一人ひとりの生活のリズムに臨機応変に対応し、その人らしい暮らしの実現に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々の着替えは出来るだけ本人に選んでいただいている。自分で選ぶのが難しい方には、職員がその人に似合う装いを本人と考え、選ぶようにしている。また、女性の方にはマニキュアを塗ったりして、おしゃれが出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は入居者と同じテーブルを囲みながら食事をし、一人ひとりのペースに合わせた食事の介助を行っている。利用者の好みなどを聞き出し、栄養委員会で意見をあげ、メニューに反映できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の好みを聞き取り、法人の栄養委員会で話し合い、土用の丑の日に鰻丼にされたり、お刺身やラーメン等もメニューに採り入れ食事を楽しまれている。食事中、職員は、利用者と同じものを食べながら、味付けの感想をお聞きする等、メニューのことを話題にして会話されていた。調査訪問時は、ホットケーキを利用者と職員で作っておられた。すいかの皮を付けて切っておられ、食べにくい方には、職員がお聞きしてサイコロ状に切って来られる様子うかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人ひとりの毎食の食事や1日を通じての水分量などを記録し、栄養や水分量が不足していないか確認をしている。水分量や食事量が少ない入居者には、好みの飲み物や食べ物を用意するなどし、本人がすすんで食事が摂れるように努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけや見守り、介助をしながら口腔ケアを行っている。義歯の洗浄も出来る範囲は自分でして頂き、出来ない部分を職員が介助するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			1人ひとりの排泄パターンや習慣をチェックし、随時トイレへの声かけ誘導する事で、排泄の失敗をなくすように支援を行っている。オムツ介助の方も可能な場合はトイレで排泄していただけるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			布の下着を使用されていた利用者が、入院して紙おむつを使用するようになっていたが、様子を見ながらパットに変更し、声をかけながらトイレ誘導を重ね、布の下着を使用するまでに戻られた方がいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			週2回入浴日を決めているが、本人の希望や状態などに合わせて曜日や時間の変更を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			現在は、週2回入浴日を設けておられるが、ご本人のその日の体調等にも合わせて柔軟に対応されている。介護度重度で首等が不安定で姿勢保持がむづかしいような方も、エア枕を使うことで安定して浴槽で温まってもらえるようになった。又、設備等も安全に配慮しておられる。入浴後に爪を切るようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人ひとりに個別に薬箱を用意し、服薬ファイルや医療記録をしている。薬は職員が管理し、飲み忘れや誤薬がないように支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) エプロンをたたむ、おしぼりを作るなど、日常生活で出来る事を役割として本人にお願いしている。して頂いた後は「ありがとうございました」などと職員が声をかけ、自分が必要とされているとの喜びが持てるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の希望に合わせて、敷地内や近くの海への散歩など精力的に行っている。週1回の買物レク、月2回の行事レクなども行っており、戸外に出かけられ活動的な日々が過ごせるように支援をしている。 (外部評価) 近くの海岸を散歩されたり、コンビニに買い物に行かれることもある。外食や行事等、ご家族も一緒に行かれる方もある。又、チラシを見て利用者から「行ってみたい」という声があり「コスタ北条」に観劇に行かれた。併設デイサービスの木工教室等にも参加されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族からお金を預かり、事業所で管理をしている場合でも、本人の希望や力に応じてお金が使えるように支援している。また、買物レクなどを通じて、お金を持つ事や使うことの大切さを知って貰えるようにこころがけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人から希望がある場合に応じて、電話や手紙のやり取りの支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が心地良く過ごせるように、自然の光や風を取り入れた落ち着いた雰囲気づくりをこころがけている。時期の飾りつけや花でグループホーム内においても季節感を感じられるように努めている。	
			(外部評価) 玄関には、大きな観葉植物の鉢植えや陶器の人形が飾られている。又、休憩できるベンチも設置されている。お遍路さんがホームに立ち寄った際には、お接待をされた。居間には、利用者の方の願い事が書かれた笹飾りが飾られていた。又、壁面には職員が紙で作ったひまわりの花を飾られていたり、カレンダーが貼ってあった。畳の間にあるマッサージチェアを使用される利用者もある。廊下には、お誕生日の様子やご家族との写真がたくさん飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや畳コーナーなど少人数で過ごせる空間作りをしている。また、玄関先にはベンチを設置し、天気の良い日など気の合った入居者同士で楽しい時間を過ごせるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人・ご家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を置くなどし、今まで過ごしてきた環境に似る事で安心した生活が送れるように努めている。部屋には畳を準備し、ご本人が希望される場合には布団を敷いて休めるようにしている。	
			(外部評価) 併設デイサービスの木工教室で作ったものや家族写真を飾っておられる方もあった。テレビを置かれて、居室で見たいテレビ番組を楽しむ方もある。入り口に掛けられてあるのれんは、それぞれのご家族がご本人の好みに合ったものを選んでおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや廊下、浴室には手すりを設置し、廊下もシルバーカー・車椅子どちらでもゆったり移動できるようにしている。トイレや居室には場所が分かり易いように印を付けたりし、1人ひとりの目線や立場を大切に、出来る限り自立した生活が送れるように支援している。	